

「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」の

これまでの主な取組と成果

抜粋版（第4回小委員会）

令和6年9月

広島県

# 目 次

農林水産業	.....	1
観光	.....	5
スポーツ・文化	.....	9
平和	.....	13
交流・連携基盤	.....	17



## 農林水産業

### 目指す姿（10年後）

- スマート農業の実装が進み、全国の中山間地域をリードする生産性の高い農業が確立され、担い手が企業経営を実現するなど、安定した所得を確保しています。こうした経営体が育成されることで、職業として農業を選択する人が増加しています。また、企業経営体をはじめとした担い手が、農村地域のリーダーとして兼業農家など多様な主体と連携し、生産活動を拡大しながら農地の保全活動等に取り組むことで、地域農業を支えています。
- 広島血統を代表する比婆牛が、価値の高い食材として県民や観光客に喜ばれ、広島を代表する食の一つとして認識され、同様に、神石牛の認知度も高まっています。また、肥育経営体においては、生産体制と労働環境が整った収益性の高い企業経営が確立されています。
- 県内人工林約 14 万 ha のうち、資源循環林4万 ha において、林業経営適地の集約化が図られ、経営力の高い林業経営体により、50 年サイクルで年間 40 万 m<sup>3</sup>の県産材が安定的に生産される持続的な経営が行われています。また、年間 40 万 m<sup>3</sup>の県産材が、生産から流通、加工、利用まで効率的に流れ、社会において有効な資源として利活用されています。
- かき養殖においては、デジタル技術を活用した効率的で安定的な養殖が行われ、全国一の生産量が持続されるとともに、産地単位で水産エコラベル認証が取得され、海外輸出にも対応可能な持続的な広島かき生産体制が構築されています。海面漁業においては、資源管理や漁場環境の整備などにより、安定的な漁獲量の確保と供給体制の構築が進んでいます。さらに、かきだけでなく、瀬戸内の多彩な地魚が広島を代表する食材として県民の誇りになっているとともに、観光客の訪問のきっかけになっています。

ビジョン指標	当初値	現状値	目標値 (R7)	目標値 (R12)
農業生産額	712 億円	707 億円 (R4.12 時点)	736 億円	746 億円
農業生産額1千万円以上の経営体数	605 経営体	637 経営体 (R5 年度末時点)	655 経営体	705 経営体
農業生産額1千万円以上の経営体生産額	234 億円	280 億円 (R5 年度末時点)	275 億円	335 億円
比婆牛を取り扱う高級飲食店の増加数	—※1	4店舗 (R5 年度末時点)	10 店舗	30 店舗

(参考)KPI 別冊p26～28

広島和牛を肥育する企業経営体数	2経営体	5経営体 (R6.6時点)	5経営体	15経営体
広島和牛を肥育する企業経営体の飼養頭数	1,800頭	2,649頭 (R6.2時点)	2,730頭	4,850頭
集約化された林業経営適地の面積	0ha	1.0万ha (R5年度末時点)	1.8万ha	4万ha
かき輸出量	1,500トン	1,687トン (R5.11時点)	2,000トン	2,500トン
海面漁業※生産額800万円以上の担い手数 〔※いわしを除く〕	50経営体	48経営体 (R4年度末時点)	71経営体	84経営体
海面漁業※生産額800万円以上の担い手生産額 〔※いわしを除く〕	7億円	4.7億円 (R4年度末時点)	11億円	19億円

※1 広島県内の高級飲食店を紹介するガイドブックに掲載されている店舗数 0店舗(R2)

主な取組	
<p>●経営力の高い担い手を育成・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 新規就農者数: +121人[R5]</li> <li>➢ 担い手への農地集積 +3,309㍏ [H22:10,452㍏⇒R5:13,761㍏]</li> <li>➢ ひろしま農業経営者学校 研修修了者: 延べ690人[H23~R5]</li> <li>➢ 企業経営への転換を目指す担い手に対し 専門家チームによる支援を実施[H30~]</li> <li>➢ 持続的な経営発展を促すアグリ・フードマネジメント講座を開講[R1~]</li> <li>➢ 新たな「食」のビジネスを創発し、農業経営他の「稼ぐ力」を高めるための支援プログラム 「Hiroshima FOOD BATON」の開始[R4~]</li> </ul>	<p>●農林水産物の生産・販売を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ひろしま型スマート農業プロジェクト 「ひろしま seed box」の実証試験 [R3~]</li> <li>➢ 広島県産応援登録制度 登録商品 318商品 [R6.3末時点]</li> <li>➢ レモンの生産拡大に向けた生産基盤整備の推進 [H28~]</li> <li>➢ 比婆牛のブランド化に向けたバリューチェーン構築 [R5~]</li> <li>➢ 県産材消費拡大支援事業による 県産材の住宅分野等への利用:24.1千㎡ [R5]</li> <li>➢ 生食用殻付きかきの周年供給体制の構築に向け、東部海域における夏期の生食用殻付きかきの生産・出荷 [R1~]</li> </ul>

## 評 価

- ひろしま型スマート農業の実証(「ひろしま seed box」)により生産性の向上に取り組むとともに、ひろしま農業経営者学校による産地(地域)の家族経営体(I層経営体)の経営発展意欲の醸成や、企業経営に向けて発展している経営体(Ⅲ層経営体)への専門家チームの派遣による支援、及び、新たなビジネスを創発する「食のイノベーション」の取組(「Hiroshima FOOD BATON」)等により、「農業生産額 1 千万円以上の経営体数」及び「農業生産額 1 千万円以上の経営体生産額」は着実に増加している。
- 広島和牛の「ひろしま」ブランドとしての強化のため(主要事業の成果「広島和牛ブランド構築事業」)、広島血統を代表する比婆牛の取扱店舗の拡大及び安定供給に向けた県内高級飲食店における営業実証等に取り組む、流通量が少ない中でも料理人から一定の評価を得るまでに至った結果、「比婆牛を取り扱う高級飲食店の増加数」は増加してきている。また、企業経営を目指すべき畜産経営体に対し、経営体ごとの経営発展課題に対応した専門家の派遣等により、「広島和牛を肥育する企業経営体数」及び「広島和牛を肥育する企業経営体の飼養頭数」は着実に増加している。
- 林業経営適地の集約化については、市町の森林経営管理制度の取組や林業経営体の森林経営計画の作成支援により、林業経営への理解や関心のある所有者の森林を中心に「集約化された林業経営適地の面積」は着実に増加している。また、木材加工流通施設を整備するとともに、流通コーディネーターと連携した県産材の効率的な集荷と需要先への安定的な供給等により、必要な県産材需要の確保につながっている。
- かき養殖においては、水温等の漁場環境データを活用したへい死防止対策の情報提供や収穫適期予測により、持続的な広島かき生産体制の構築に向けて取り組んでおり、生産量の不安定化への懸念は小さくなっている。また、海面漁業においては、水産資源の回復・保全に向けて、底質改善対策として令和3、4年度に行った海底耕うんについて、底質環境指標の一部改善と餌料生物の増加効果が確認できた。さらに、瀬戸内の多彩な地魚の魅力を広めるため、新たに「瀬戸内さかな」のシンボルマークの活用や、共創店舗における漁業者との交流会を含む営業実証などに取り組んだところであり、こうしたコミュニケーションが体験価値としての魅力や訴求力を一層高めることが確認できた。

## 課 題

- 他産業との厳しい人材確保競争の中で、スマート農業や ICT 漁獲技術、林業の低コスト施業など、生産性を飛躍的に高める技術を生かし、これまでにない新たな農林水産業に挑戦する人材や企業を呼び込むなど、魅力を感じる産業に変革していく必要がある。
- 肥料や飼料等の資材価格の高騰により生産コストが上昇する中、経営力の高い担い手が生産の大部分を占める力強い生産構造への転換に向け、スマート農業技術の導入促進や県産未利用資源の活用拡大などの対策をの検討、経営発展の段階に応じた支援など、資材高騰にも対応できる経営力の高い担い手の育成が求められている。
- G7広島サミットで高まったプレゼンスを追い風に、広島の「おいしい」イメージを定着させ「ひろしまは美味しさの宝庫である」という、ひろしまブランドの強化につなげ、農林水産物の消費・販路の拡大に資するよう、その価値・魅力をさらに高め、県内外から広く共感を獲得する必要がある。

## 観 光

### 目指す姿（10年後）

- 真に価値のある観光プロダクトや多彩で魅力的な観光資源が整っていることで、観光地としての「ひろしまブランド」や「瀬戸内ブランド」の認知が高まり、広島県を訪れた国内外の多くの人々が、本県でしか得られない価値に触れ、「もう一度、時間をかけて体験したい」、「ほかの魅力にも接してみたい」と思っただけの観光地となっています。
- 高齢者や外国人を含めた全ての観光客がストレスなく、自然災害発生時等にも安全が確保され、便利に安心して旅行できる環境が整っています。
- 国内外の多くの方から高く評価され、選ばれる観光地となっていることについて、県民や観光関連事業者が誇りを持っており、県民一人一人が、より一層「おもてなし」の心を持って観光客に接しています。
- 高まった魅力や評価から得られる誇りを背景に、幅広い事業者が新たに観光に携わり、イノベーションに挑戦し続けることにより、急激な環境変化にも柔軟に対応しています。
- その結果、広島県のブランド価値がより高まり、更なる来訪の増加や評価の高まりにつながるといった好循環が生まれており、基幹産業であるものづくり産業に加え、観光が県経済の成長を支える産業の一つとなっています。

ビジョン指標	当初値	現状値	目標値 (R7)	目標値 (R12)
観光消費額	4,410 億円 (R1)	【R6.7 判明予定】	6,300 億円	8,000 億円
観光客の満足度	73.4% (R1)	75.2%	90%	90%
住民の満足度	—※1	69.1%	80%	90%

※1 <<参考>>せとうち7県の県民満足度調査 広島県:約 72.6%(R1)

## 主な取組

- **ブランド価値向上、受け入れ環境整備、広島ファンの増加**
- **観光プロダクト開発促進のための幅広い事業者間ネットワーク(プラットフォーム)の形成**  
プラットフォーム参加事業者数 約 **1,029** 事業者 [R6.3 時点]
- **観光プロダクト開発への支援補助金**: 補助件数 **68** 件[R6.3 時点]
- 観光関連事業者の生産性向上と観光客等の利便性向上のための  
**観光 DX 推進事業**: 補助件数 **217** 件
- **広島県地域通訳案内士**の育成: 登録人数 **284** 人[R6.3 時点]
- G7 広島サミットの開催効果を活かした宿泊事業者支援**宿泊促進キャンペーン**の実施  
利用宿泊数約 **260,000** 人

## 評 価

- コロナ禍を経た新たな観光ニーズを踏まえながら、県内各地で、本県の多彩な魅力を生かした観光プロダクトの開発に取り組むとともに、そうした観光プロダクトの開発における異業種を含む幅広い事業者間連携の推進、観光関連データを市町等と共有する基盤整備などに取り組み、「外国人観光客数」、「宿泊者数」、「外国人宿泊者数」、ビジョン指標である「観光消費額」についてはコロナ禍前の水準に戻った。一方で、「総観光客数」についてはコロナ禍後、徐々に回復しつつあるものの、令和元年の数値に及んでいない。
- G7広島サミットの開催効果によるインバウンド需要の回復を見据えた、デジタル化対策、省エネ対策などの受入環境整備の支援、観光関連事業者の生産性向上や観光客等の利便性向上につなげるためのDXツールの導入支援、広島県に関する深い知識を持った質の高いガイドの充実に向けた地域通訳案内士の育成、及び観光関連事業者等のおもてなし意識の向上などに取り組んでおり、「観光客の満足度」の向上に一定の成果はあったものの、更なる受入環境の充実・強化が必要と考えている。

## 課 題

- 新型コロナの拡大や自然災害の多発などによる観光客の意識、価値観の変容や、令和5年度の新型コロナの5類移行やG7広島サミットの開催による観光需要の急速な高まりなど、観光を取り巻く環境変化に柔軟に対応していくためには、観光関連事業者だけではなく幅広い事業者が観光に携わり、イノベーションに挑戦し続けていくことができる、自立的・継続的な観光産業を確立していくことの重要性が高まっている。
- 観光地として高い評価を受けている一方で、その評価を宿泊数の増加に十分生かしきれていない現状がある中で、今後も増加が見込まれる外国人観光客に対する受入環境の一層の充実や観光ニーズの多様化への対応、宿泊事業者を始めとする観光関連事業者における人手不足対策などが新たな課題となっている。

## スポーツ・文化

### 目指す姿（10年後）

- 地域の多彩なスポーツ資源に対する県民の認知が高まり、それらを活用した地域づくりの取組が県内各地で盛んになることで、新たなにぎわいの創出や地域経済の活性化などの成果が現れ始めています。
- 多くの県民が野球やサッカーといった身近なスポーツに限らず、都市と自然の近接性という本県の強みを生かし、マリンスポーツやウィンタースポーツ、アーバンスポーツ、eスポーツといった多様なスポーツを楽しんでいます。
- スポーツを「する」だけでなく、県内のトップチームやアスリートの活躍を「みる」ことや、スポーツボランティアなどのスポーツ活動を「ささえる」輪が広がることで、県民同士の一体感が高まり、広島が新たな「スポーツ王国」として広く認知され、地域への愛着や誇りが醸成されつつあります。
- パラスポーツについて県民の認知が高まり、障害の有無や、年齢、性別を問わず、誰もが参画し、楽しむことで、スポーツが多様性を認め合うきっかけとなっています。
- 多様な文化芸術について、県民の様々なニーズに応じた、「鑑賞する」「自ら体験する」ことができる機会が充実し、多くの県民が参画しています。
- 広島を代表する文化芸術として、神楽や交響楽団などが県内外から高く評価されることで、文化芸術に対する県民の関心が高まり、親しむ人が増え、地域への愛着や誇りが醸成されつつあります。
- 地域の歴史文化に触れることができる機会が充実し、また、こうした歴史文化の情報が一元的に集約され、容易にアクセスできるなど、地域の歴史文化を知ることができる環境が整い、県民の理解が進んでいます。

ビジョン指標	当初値	現状値	目標値 (R7)	目標値 (R12)
スポーツを楽しめることを誇りに 思う県民の割合	52.4% (全国1位) (R1)※ <sup>1</sup>	71.4% (R5)※ <sup>2</sup>	58.7%	65%
週に1日以上スポーツ実施率	県:41.8% (国:53.6%) (R1)	53.7% (R5)	53.4%	65%
過去1年間に文化芸術活動(鑑賞・体験等)に参加した県民の割合	鑑賞活動: 48.3% 体験活動: 19.5% (R2)	鑑賞活動: 38.5% 体験活動: 16.6% (R5)	鑑賞活動: 65% 体験活動: 35%	鑑賞活動: 80% 体験活動: 50%

※<sup>1</sup> 地域ブランド調査(株式会社ブランド総合研究所)R1で調査終了。

※<sup>2</sup> 県民意識調査(県施策形成支援チーム)

(参考)KPI 別冊p31～32

主な取組

● スポーツを活用した地域活性化

- 「わがまち<sup>※</sup>スポーツ」に取り組む市町の支援  
[R2~]

● 誰もがスポーツに親しむ環境の充実

- 広島横断型スポーツ応援プロジェクト  
「Team WISH」の運用開始 [R4.3]
- パラスポーツを通じた共生社会の実現

「インクルーシブ・スポーツ・フェスタ広島」の開催 [R5~]

● スポーツ競技力の向上

- 「ひろしまスポーツアカデミー」  
第1・2期生(中学生)の育成プログラムの実施  
[R4.4~R6.3]
- 第3期生の選考会の実施 [R5.10]

● 文化芸術に親しむ環境の充実

- 県立美術館における**多様な特別展**の開催
- **広島県公立文化施設ネットワーク**の運営
- 県内の公共ホールを拠点とした

**地域住民参画型モデル事業**の実施[R4~5]

- 広島交響楽団などが県内 12 市町を巡回する  
**「ミュージックキャラバン」**の実施

- 中四国地方の神楽が一堂に集結する  
**「神楽フェスティバル」**の開催

- G7 広島サミット等の契機を生かした  
**「縮景園」**の魅力発信

- **けんみん文化祭**及び**県美展**の開催
- 歴史民俗資料館、歴史博物館及び頼山陽史跡資料館における**企画展等の開催**

## 評 価

- それぞれの地域のスポーツ資源を活用して地域活性化を目指す取組を「わがまち◆スポーツ」とし、各市町における「わがまち◆スポーツ」の目指す姿や戦略の策定、その遂行に対して支援を進めてきた結果、これまで、11 市町において取組が進められている。具体的には、三次市におけるWBSC女子野球ワールドカップグループBの開催や、安芸太田町における湖面を活用したウォーターアクティビティの展開など、地域のスポーツ資源を活用した交流人口の増加といった好事例が生まれてきている。
- 広島を拠点に世界や全国で活躍する県内のスポーツチームと連携した広島横断型スポーツ応援プロジェクト「Team WISH」を実施し、ウェブ上でのサービスや県民と選手が触れ合える場の創出などに取り組んだ結果、県内のスポーツチームに対する県民の認知度はコロナ前の状況まで回復しているものの、一部のチーム以外は広く県民に認知されていない状況が引き続き見られる。
- パラスポーツに対する県民の認知度の向上に向けて、障害の有無に関わらず誰もが参画し楽しめる「インクルーシブ・スポーツ・フェスタ広島2023」の初開催などに取り組んだ結果、当該フェスタでは、7市町 16 競技の体験会に参加者・ボランティア・観客など、約 3,000 名の参加があり、パラスポーツの普及啓発が一定程度進んできている。
- 県立美術館と縮景園との連携展示や子供から大人まで楽しめる体験型ミュージアム（特別展）の開催のほか、「公立文化施設ネットワーク」への参画市町を全市町に拡大し、広島交響楽団などが県内 12 市町を巡回する「ミュージックキャラバン」を実施するなど、県民が文化芸術に親しむ機会の充実に努めてきたものの、文化芸術について関心がある県民の割合について、目標を下回って推移している。
- 市町と連携した周年歴史事業の開催に取り組むほか、G7広島サミット等を契機とした「縮景園」の魅力発信や、「中四国神楽フェスティバル」の実施などに取り組んだものの、地域の歴史について知っていると回答した県民の割合について、目標を下回って推移している。

## 課 題

- スポーツ資源を活用した地域活性化に向け、関係団体(スポーツ団体、経済団体)との調整、協賛団体の発掘、ボランティアの募集など、地域を巻き込んだ市町等の推進体制の強化が必要となるが、市町における知識やノウハウが十分に蓄積されているとは言えない状況にある。
- 県内のスポーツチームについては、一部を除き広く県民に浸透していないことから、各チームにおける認知拡大及び試合観戦者数の増加に向けた取組を促進する必要がある。
- 高齢者の健康意識の高まりによって、60代以降のスポーツ実施率は向上しているものの、働く世代・子育て世代のスポーツ実施率は全世代の平均より低く、運動習慣化のきっかけづくりが必要である。
- 県民の文化芸術への潜在ニーズを喚起する魅力発信に向け、県民に身近な市町において魅力的な文化芸術イベントが実施されるよう、各市町における文化芸術事業の企画・運営能力の向上を図る必要がある。また、地域の歴史について、興味があるものの神楽鑑賞など具体的な行動に移していない人や、興味・関心が高くない人も含め、県民に広く働きかけができていない状況である。

# 平和

## 目指す姿（10年後）

- 核兵器の存在を前提としない、新たな安全保障政策に基づく多国間枠組みに、核兵器国を含む全ての国の合意、参加を得て、核兵器廃絶の実現に向けた具体的な道筋が明らかになっています。
- 広島で平和を学んだ将来を担う若い世代が、戦争で傷ついた地域の復興を支える取組に参画するなど、様々な形で平和を希求する活動に持続的に関わることで、世界中に共感の輪が広がり、国際社会に影響を与え、安心して暮らせる平和な世界の実現に貢献しています。
- 賛同者の拡大に伴い、平和に関する人材、知識・情報、資金などの資源が、国内外から、広島へ持続的に集積され、広島が、平和に関する諸課題を解決に導く国際平和拠点として世界中から認知され、平和への期待が集う場所としての役割を發揮しています。

ビジョン指標	当初値	現状値	目標値 (R7)	目標値 (R12)
核兵器廃絶に向けた国際的な合意形成	合意形成方策の検討	合意形成に向けた働きかけの開始 (R5)	多国間枠組みを構築することに、国連加盟国の過半数が賛同	多国間枠組みに核兵器国を含む全ての国が参加

主な取組

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 核兵器廃絶に向けた新たな政策づくりと<br/>多国間枠組みの形成</li> <li>➢ 「ひろしまラウンドテーブル」の開催[R5.7]</li> <li>➢ 「NPT 運用検討会議第1回準備委員会」<br/>への参加[R5.7～8]</li> <li>➢ 「アイデアコンペ 平和 × ○○ — 核<br/>軍縮と持続可能な未来」の開催[R5.8]</li> <li>➢ 「ひろしまレポート」の作成[R6.3]</li> <li>● 平和の取組への賛同者の拡大と世界への働きかけ</li> <li>➢ 「未来へのおりづるキャンペーン」の実施<br/>[R5.8]</li> <li>➢ 「核兵器禁止条約第2回締約国会議」へ<br/>の参加[R5.11]</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 広島が有する経験や資源を生かした復興・平和構築</li> <li>➢ 「グローバル未来塾 in ひろしま」の実施<br/>[R5.7～R6.2]</li> <li>➢ 「広島-ICANアカデミー」の実施[R5.10～11]</li> <li>● 持続可能な平和推進メカニズムの構築</li> <li>➢ 「世界平和経済人会議ひろしま」の開催<br/>[R5.4]</li> <li>➢ 「G7広島サミット関連公開イベント「核抑<br/>止を再考する」」の開催[R5.4]</li> </ul> |
|---|---|

## 評 価

- 核抑止に替わる新たな安全保障政策づくりに向け、世界的な平和研究機関と政策提言の基礎となる核抑止に頼らない安全保障のあり方に関する調査研究を進めており、積極的な情報発信を行っている。
- 国連の次期開発目標に核兵器廃絶が位置付けられることを目指して、国際会議等の機会を生かして国際社会への働きかけを進めているとともに、令和4年4月に設立した、市民社会から働きかけを行う「グローバル・アライアンス『持続可能な平和と繁栄を全ての人に』」(通称 GASPPA)を中心に、国際NGO等との連携も深まってきている。
- 紛争終結国や開発途上国の発展に貢献できる人材の育成に向け、G7広島サミットのパートナーズ・プログラムにおいてユニタール広島事務所と連携したイベントの開催や、「グローバル未来塾 in ひろしま」や「広島-ICAN アカデミー」等の継続実施により、多くの方に被爆、復興の歴史や被ばく者医療などについて学ぶ機会を提供することで、今後の国際平和構築に貢献する次世代の人材育成が進んでいる。
- 平和に関する資源の集積機能や研究機能等を備えたセンター機能を有する、へいわ創造機構ひろしま(HOPe)を令和3年4月に設立するなど、核兵器のない平和な世界の実現に具体的に貢献するための基盤整備が着実に進んでいる。

## 課 題

- ロシアのウクライナ侵攻やガザ情勢など国際情勢が混迷を極める中、核兵器問題を巡って国際社会の分断は深まっており、また、核抑止への依存が高まり、核軍拡の傾向も見られ、核軍縮に向けた具体的な進展が見られない中で取組を進めていく必要がある。
- 政策作りにおいては、調査研究の成果を生かして、安全保障政策作りを進め、核兵器国を中心として国際社会に働きかけていく必要がある。
- 2030年から始まる国連次期開発目標に向けては、今後、国連内で議論が加速していく見込みであり、これに核兵器問題を位置づけるよう、フレンズ会合やグループの形成に向けて、国連加盟国や市民社会などへの働きかけを強めていく必要がある。
- 被爆者の高齢化と被爆者人口の減少が進んでいることから、被爆の実相と被爆者の想いを受け継ぎ、将来の核兵器廃絶に向けた取組を担う次世代人材の育成を強化する必要がある。
- へいわ創造機構ひろしま(HOPe)の取組が県民や企業に十分に認知されているとはいえ、HOPeの取組に賛同する企業・団体の数は伸び悩んでいる。

## 交流・連携基盤

### 目指す姿（10年後）

- ビジネスや観光、日常生活において県内外を移動する人が、快適かつ適切なコストで利用できる交通基盤や MaaS 等の多様な交通ネットワークから、それぞれの目的に応じた最適な手段を組み合わせ、便利で快適に移動しています。
- 県内及び周辺地域の立地企業とその相手先企業が、本県の港湾サービスと多様な交通ネットワークなどを組み合わせて利用することにより、それぞれの企業が希望する最適な物流ネットワークを構築しています。
- 国内外から本県を訪れる人が、クルーズ客船で安全かつ快適に寄港し、地域の魅力に触れることで高い満足度が得られています。

ビジョン指標	当初値	現状値	目標値 (R7)	目標値 (R12)
広島空港利用者数	297 万人 (R1)	269 万人 (R5)	310 万人	360 万人
県内港におけるコンテナ取扱量	36 万 TEU (R1)	35 万 TEU (R5)	42 万 TEU	48 万 TEU
年間渋滞損失時間	4,500 万時間 (R1)	4,180 万時間 (R5)	3,500 万時間	3,000 万時間

(参考)KPI 別冊p38

主な取組

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>世界とつながる空港機能の強化</b></li> <li>➤ <b>航空会社等に対する緊急支援</b>を実施[R4~]</li> <li>➤ 広島空港アクセスの確保に向けた<b>バス事業者に対する運行経費の一部支援</b> [R4]</li> <li>● <b>人・モノの流れを支える道路ネットワークの構築</b></li> <li>➤ <b>主要渋滞箇所の渋滞を緩和する道路整備の推進</b></li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>世界標準の港湾物流の構築とクルーズ客船の寄港環境の整備</b></li> <li>➤ <b>広島港出島地区岸壁整備</b>の新規事業化[R3~]</li> <li>➤ <b>福山港箕沖地区岸壁</b>供用開始[R4.3~]</li> <li>➤ <b>広島港セミナー</b>[R5.1]、<b>広島県東部港湾セミナー</b>[R4.11] の開催</li> </ul> |
|---|--|

## 評 価

- 広島空港について、航空会社へのセールス活動や空港業務の委託経費といった運航経費の一部支援を行ったことなどにより、新型コロナの影響で運休していた国際線が令和5年度に大連・北京線及び上海線が復便し、更にソウル線が就航したものの、航空会社の経営資源削減や空港の人材不足等により復便・増便が遅れたため、新型コロナ前の状態までは回復しておらず、広島空港利用者数は当初値を下回っている。
- 県内港におけるコンテナ取扱量について、県内港への集貨に取り組むとともに、船社に対して、既存航路の維持・拡充について働きかけを行ってきており、広島港では、主要品目である自動車部品の輸出が増加したこと等により過去最高(令和5年度:279,061TEU/年)となったものの、福山港では、衣料品の輸入減少等により前年比で減少したため、全体としては当初値と同程度で推移している。
- クルーズ客船の寄港については、新型コロナの影響により休止していた外国クルーズ客船の寄港が、令和5年3月に再開し、クルーズターミナル整備等による受入環境の充実や、船会社訪問による県内港及び周辺観光地のPRなど、需要の掘り起こしにつながる取組を進めた結果、既に再開していた日本船と合わせ、計63回/年度の寄港があり、新型コロナ前の寄港回数を上回るまで回復した。
- 県内の主要渋滞箇所の解消に資する道路整備を着実に進めたことにより、年間渋滞損失時間を令和元年度の4,500万時間から令和5年度の4,180万時間まで減少させることができています。

## 課 題

- 新型コロナ後のビジネス需要の落ち込みや、空港や航空会社のリソース(機材・人材等)不足等の影響で、地方空港間の路線誘致競争は引き続き厳しい状況にある。また、空港へのアクセスについても、国内線のビジネス利用者の減少や公共交通機関の人材不足など、広域的かつ利便性の高い空港アクセスネットワークの構築に向けて対応が必要な課題が顕在化している。
- 広島港については、地域産業の持続的発展やアジア諸国等との交易拡大を支援する国際物流拠点を形成するため、集荷の促進や大水深岸壁の整備等の着実な事業進捗、荷役機械の増設といった外貿コンテナ機能の強化が求められている。
- クルーズ客船の寄港については、着実に回復している客船寄港に対し、出入国審査を始めとする受入体制の構築や地域を巻き込んだおもてなしの充実に取り組む必要がある。
- 「広島県道路整備計画 2021」に基づき、計画的に道路整備に取り組んでいるところであるが、工事進捗の遅れが生じている事業があるなど、一部で主要渋滞箇所の対策が完了していないところがある。